東京 IPO　特別コラム

２０１８年3月6日　Vol.１１４

調整続く株式相場に曙光

年初あれほど堅調な推移を見せた日本の株式相場は１月２３日をピークに調整局面入り。３月に入っても調整の動きが続いています。基本的には想定外の円高や高値から１０％ほどの調整を演じたＮＹダウの下落が契機となっての調整です。ここに来てはトランプ大統領の鉄やアルミへの関税発言で貿易戦争勃発かとの危機感も背景はあります。どこまで下がるかの不安心理が投資マインドを委縮させてしまっては迫力に乏しい展開にならざるを得ないのも致し方ありません。根強い先安感が売り方優位の展開をもたらし小口売り、換金売りを誘発してきたものと見られます。

日経平均は２月１４日のバレンタインデーについた２万９５０円を暫定１番底として一旦は半値戻り水準まで上昇したのですが、その後のＮＹ株の大幅下落と円高の進展が再び相場の下落をもたらし、昨日は一時２万９３７円という年初来安値をつけました。引けにかけ小戻し、かろうじて２万１０００円台を維持。先行きへの不安感は残ったままではありますが、週明けのＮＹダウの大幅反発によって日経平均も反転上昇の動きが見られ、２番底形成のパターンとなりそうな点は一つの光明と言えます。空売り比率（信用売り残株数／出来高×１００）が４６．９％と高まっている点も一旦の反発ムードとなれば一気の買い戻しにつながる可能性があり、まだまだ油断はできませんが、暗い谷底のような相場全体に曙光が差しつつあると感じられます。

こうした局面の中で公開値に対して初値が４倍以上の水準で寄り付いた２月ＩＰＯ２銘柄（Mマート、ジェイテックコーポレーション）に続いて３月第１号のＩＰＯ銘柄ＳＥＲＩＯホールディングス（６５６７）は２．３倍で初値をつけた後、やや調整の動きが見られます。過熱気味なＩＰＯ市場だっただけにこうした展開は致し方ないところです。このところ中小型株指数も調整の動きが見られ、昨年のＩＰＯ銘柄にも多少、調整ムードが漂っていますが、IPO ラッシュとなった１２月のＩＰＯ銘柄には森六ホールディングス（４２４９・東証１部）のように早くも初値割れ銘柄が見られる一方で、オプトラン（６２３５・東証１部）や歯愛メディカル（３５４０）のような初値から高値まで２～３倍に上昇したような銘柄も見出せます。要はどんな相場展開にせよ、銘柄次第で成果は異なるということです。

１５日から３月後半の１３銘柄が登場して参ります。全体相場が反転傾向になると一旦はＩＰＯ銘柄へのリスクテイクの動きは大人しくなってしまいますが、基本的にはまだ全体相場は先行き不透明な中ではありますのでＩＰＯ銘柄への関心は引き続き高いと考えられます。ただ、銘柄によって評価は異なり、ＩＰＯ後の値動きにも差が出て参ります。ＩＰＯ前だけではなく、ＩＰＯ後に訪れる調整場面も含めて企業内容のチェックなどに努めて頂く必要があります。ぜひＩＰＯ銘柄への投資等、継続的な取り組みに東京ＩＰＯサイトを引き続きご参照頂ければ幸いです。

東京 IPO　特別コラム

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）